

# ご近所のお医者さん

□  
678  
□

笠原産婦人科医院長 **笠原幹司さん** 一東大阪市

## 不妊治療より身近に

「子どもは授かりもの」といいますが、望んだ時に授かるケースばかりではありません。医学的には、妊娠を希望して「一定期間」がたっても自然に妊娠しない場合を「不妊症」と定義し、1年を目途に判断します。しかし、排卵が不規則▽子宮筋腫や子宮内膜症を合併▽男女ともに年齢を重ねていくなど

の状況は妊娠しにくく、一定期間を待たずに治療を開始した方が効果的な場合もあります。子どもを望みつつ、なかなか妊娠に

## 早めの情報収集大切

至らないカップルは、以前は10組に1組といわれていました。最近では、結婚や出産を考えるタイミングが遅くなっていることもあり、5・5組に1組のカップルが不妊治療や検査を受けています。ですから、不妊症は決して特別なことではありません。また、不妊の

原因は女性にあると思われるがちですが、男女どちらにも可能性があり、その割合は半々です。そのため、不妊治療を希望される場合は、なるべく早めに2人そろって検査を受けることが大切だと考えます。

象となりました。対象となる年齢と回数には定めがあり、治療開始時点で女性が43歳未満の場合で、40歳未満で子ども1人に対し最大胚移植6回、40歳未満で最大胚移植3回までとされています。なお、不妊症や不育症に対して独自の助成をしている自治体もありますので、詳しくは医療機関で尋ねてください。

治療してもなかなか結果が伴わないこともあろうかと思えます。継続するための

精神的ストレスは相当なものでしょう。厚生労働省は精神的サポートとして、同じ経験を持つ方による不妊症・不育症ピア（「同等」の意）サポーターを育成しています。皆さんが不妊治療をより身近に感じ、安心して納得のいく治療を受けられるよう、私たち専門職も更に良い環境づくりに取り組んでいきます。



2022年4月に、それまで自費診療とされていた人工授精などの「一般不妊治療」と、体外受精や顕微授精などの「生殖補助医療」が保険診療の対